

平成 27 年度 学校法人三幸学園 仙台リゾート&スポーツ専門学校

自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 高岡 昌弘

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 笠松 淳史

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

また学園全体の教務プロジェクトして以下の内容についても注力し、学校の教育力向上を図っていく。

○ビジョン・ミッション・教育理念・教育目標の浸透

⇒『あきらめない教育』の浸透

○生徒の主体性向上

⇒授業スタイルの見直し(主体性・専門性・実践力)

○授業品質の維持・向上

⇒教育ノウハウの継承・授業評価のFB制度

○教員力の向上

⇒担任力・クラス運営力の向上・教職員の一体化

2. 27 年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

学校全体の共通目標として《関係の質の向上》を掲げ、「メンバーの一体化」「メンバー・講師の一体化」「講師間の一体化」を図っている。

また教務においては以下の内容の目標・計画を掲げて取り組んだ。

○生徒指導(教科指導+生活指導)における教員行動指針

⇒「生徒のモチベーションが上がる働きかけを、あきらめず言い続けよう！」

○授業アンケート結果⇒仙台R全体平均値4.4以上および全項目4.0以上

○退学率4%未満－13名／328名中（うち内的要因3.5%未満－11名／328名中）

○精皆勤40%以上－136名／328名中（うち皆勤25%以上－106名／328名中）

◎挨拶の徹底

◎クラスミーティングの実施

◎クラス目標の掲示

①27年度重点施策振り返り

○授業アンケート結果→仙台R全体平均4.45、全項目4.34以上

・授業アンケート目標は達成している

○退学率4.6%、精皆勤率47.0%

・退学率は目標を達成できなかったが、精皆勤率は達成することができた。

②学校関係者評価委員会コメント

仙台校は例年授業の進め方アンケートの結果はどの項目も高い。

地域ごとの生徒資質の面でも比較検証を行うため、エリアごとにも検証を行う。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

① 課題

学園のビジョン・ミッションや育成する人物像が設定され、方向性の共有が図れるようになり、教職員、生徒に関しては周知する機会やツールが多く作成され、共有が図れているが、保護者に向けた周知の機会が少なく教職員、生徒と同様の認知がなされているかが課題となる。

② 今後の改善方策

保護者へ向けた周知ツールや機会の構築を行い、今まで以上の認知を図り、学校理解に努める。

③ 特記事項

特にST科、KS科の各コースについて育成する人物像の構築が行われている為、その部分の周知も同時に図る。

④学校関係者評価委員会コメント

全教員へ年3回の全体会議で共有することなど引き続き強化・浸透を図っていくことが必要である。

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4 ③ 2 1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 ③ 2 1

人事、給与に関する制度は整備されているか	4	③	2	1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4	③	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	②	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

① 課題

情報公開などコンプライアンスをもとにした施策や取り組みと通常取り組みを紐付けて整備化する必要がある。

② 今後の改善方策

法定や規則に基づいた業務の認識を全体的に高めていく。

③ 特記事項

情報システムを活用した効率化(クラウド化・情報伝達・ライブ講義等々)は学園全体として取り組んでいる。

④ 学校関係者評価委員会コメント

コンプライアンス遵守のために外部企業での取り組みを参考にすることも重要である。

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	③	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

キャリア教育・職業実践教育に関して関連施設や団体との連携した取り組みの質的向上が必要である。
また分野特性を活かせる人材育成だけでなく、人材確保・採用も検討していく必要がある。

② 今後の改善方策

スポーツ分野姉妹校全体でのスケールメリットを活かした業界との連携・企業との繋がり(教育課程編成委員会)を自校に落とし込み、日常の教育活動に反映させる仕組みを整備する。

人材育成においては内部研修だけでなく、積極的に関係者の招聘をしながら単発にならないよう定期的を実施して行く。

③ 特記事項

姉妹校全体として産学連携による教育活動の展開は方向性として持っており、リゾスポ全体での取り組みを如何に自校の日常の取り組みに繋げていくかの検討を進めている。

④学校関係者評価委員会コメント

導入された新カリキュラムは適宜改善を行っていくことが必要である。

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	4	③	2
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

卒業生に関しては情報を把握する手段や繋がりが属人的になっているため、学校として卒業後もキャリア形成の支援をするための繋がりを確保できるような仕組みづくりが必要である。

② 今後の改善方策

業界の活性化や卒業生のキャリア支援という視点から卒後教育や卒業生間の繋がり構築などの取り組みを学校単体ではなく、リゾスポ全体として進めていく。

③ 特記事項

学園全体として卒業生・同窓会組織に関するプロジェクトを進めており、まずはWEBを使った情報発信の仕組みを構築している。

④学校関係者評価委員会コメント

資格整備や新カリキュラムの導入によって生徒自身の学修成果の実感が得られ、結果、退学の削減につながっているのではないかと。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2

学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	②	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	②	1

① 課題

上記(4)同様、卒業後に関する取り組みが不足している。

② 今後の改善方策

卒業生への対応＝社会人へのキャリア教育・職業教育の機会として認識し、構築していく。

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

健康状態の管理や実技授業における安全管理体制が整備されたが、今後も安全管理体制の強化を図ることが必要である。

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 課題

H26 年 5 月に新校舎が竣工したことにより実技系器機類の整備や全教室にプロジェクター設置など授業のビジュアル化に関する大幅に対応が進められた。

防災に関しては 3.11 を踏まえて備蓄等の対策は取られており、緊急対応に関するマニュアルも整備されているが、人的な訓練の実施について検討する必要がある。

② 今後の改善方策

産学連携を重視した教育環境の改善を図っていく。

防災に関しては震災地としての認識を持って改めて見直しを図り、特に緊急時の対応や避難に関わる訓練を実施する。

③ 特記事項

新校舎竣工により大幅に教育環境の改善がなされる。東北エリアに留まらず、スポーツ分野の人材育成の環境として期待できる。

④学校関係者評価委員会コメント

外部企業の情報提供があった防災訓練を参考に仙台 R においても実施する方向で検討してほしい。

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学生募集活動は、適正に行われているか	4	③	2
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

募集定員内での募集、宮城県等の規程の沿った広報活動・募集活動が実施されている。

② 今後の改善方策

文科省からの就職実態(雇用形態)に関する通達に準じた表記等の対応を行う。

③ 特記事項

業界との連携により、この業界の魅力を発信し、優秀な人材が多く興味を持ってもらい、業界発展に貢献できるこの業界でのキャリアの見せ方、この東北エリアでの魅力ある働き方を提案できるよう検討していく。

④学校関係者評価委員会コメント

今後も適正な募集活動を行ってほしい。

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	4	③	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	③	2	1

① 課題

財務情報に関しては希望者に対して対応するようになっており、日常的に情報公開がされている訳ではなく、自己評価についても同様である。

② 今後の改善方策

自己評価ならびに学校関係者評価を実施してHP等にて日常的にも情報公開を実施して行く。

③ 特記事項

特になし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	3	②	1
自己評価結果を公開しているか	4	3	2	①

① 課題

関係法令にて義務化されている自己評価とともに評価結果の公開についても定例化させる必要がある。

② 今後の改善方策

自己評価ならびに学校関係者評価の結果からの運営改善とともに公開を進める。

③ 特記事項

産学連携による教育の充実を図っている中で職業実践専門課程への対応を視野に入れて法令を遵守する。

④ 学校関係者評価委員会コメント

外部企業での取り組みを参考に教職員への啓蒙活動を実施してほしい。

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

① 課題

教育環境の1つとしてスポーツ分野に関連したボランティア活動を積極的に推奨しており、業界との連携から場の提供と現場での教育理解を図った上で展開している。

25年度から近隣の幼児を対象に生徒たちがサポートするスポーツ教室を展開し、大変好評を得ている。

行政関係の講座・教育訓練受託に関しては分野的にほとんどないため実施できていない。

② 今後の改善方策

学校という教育環境とスポーツ人材育成という実践環境を活かして地域や関係団体と連携した活動をより推進していく。

③ 特記事項

H26年5月竣工の新校舎においてはスポーツ業界人材育成の教育環境を活かして地域に留まらず東北エリアにおいて人材育成の情報発信施設・人材交流施設を目指して運営を行う。

④ 学校関係者評価委員会コメント

施設開放等の社会・地域への貢献活動を積極的に展開してほしい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本評価の結果からは課題として浮かび上がっているのは「卒業後」と「分野特性のある人材」と「コンプライアンス」というキーワードとなっている。これまで卒業生に対する施策が乏しかったが、学園全体でのプロジェクトを活用するとともに人材という観点からもキャリア教育という観点からも在学中から学校との繋がりを強化が必要である。

また制度や規程というものを改めて見直し、コンプライアンスを重視した学校運営を進めることも公益性の高い教育機関として重要課題である。

全体としては専門学校として職業やキャリアを重視して産学連携を意図した取り組みが進んできており、よりリソース全体での産学連携の動き(キャリア支援推進)と日常的なカリキュラム(産学連携カリキュラム改訂)とリンクして教育環境の充実を図ることで、より地域 NO.1. ONLY1の学校に近づけるものである。

また本校の対象が東北エリアであることを踏まえてエリア特性を活かした人材育成や社会貢献への取り組みを1つずつでも形にしていくことも重要な課題である。